

KONAN UNIVERSITY

韓国キリスト教およびキリスト教系新宗教の日本宣 教 宗教から見る日韓関係

著者	中西 尋子
学位名	博士(社会学)
学位授与機関	甲南大学
学位授与年度	平成29年度(2017年度)
学位授与番号	34506乙第44号
URL	http://id.nii.ac.jp/1260/00003081/

博士論文（要約）

論文題目

韓国キリスト教およびキリスト教系新宗教の日本宣教

－宗教から見る日韓関係－

氏名

中西尋子

※本論文は次頁のとおり共著、分担執筆、雑誌論文として公表されているため、差し支えない範囲で論文内容を公表する。

序章

書きおろし

第1章 民族の教会としての教会形成－在日大韓基督教会を事例として

「民族の教会としての教会形成－在日大韓基督教会を事例として－」こりあんコミュニティ研究編集委員会編『コリアンコミュニティ研究』4、こりあんコミュニティ研究会、2013年、42-61頁。ISBN978-4-7989-1210-3

第2章 一世にとっての教会、二世にとっての教会－民族の教会としての機能－

「民族と教会－在日大韓基督教会の事例－」宗教社会学の会編『宗教を理解すること』創元社、2007年、50-79頁。ISBN-13:978-4422140254

第3章 在日大韓基督教会と韓国系キリスト教の日本宣教のあり方を比較して

「在日大韓基督教会と韓国系キリスト教の日本宣教」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化－韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、2011年、321-349頁。ISBN-13:978-4832967571

第4章 韓国系キリスト教会の在日大韓基督教会への加入

「韓国キリスト教の日本宣教－在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会群－」「宗教と社会」学会『宗教と社会』第22号、2016年、33-41頁。ISBN1342-4726

第5章 日本における韓国系キリスト教会の概要

「日本における韓国系キリスト教会の概要」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化－韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、2011年、244-280頁（申光澈との共著のため執筆した部分のみ使用）。ISBN-13:978-4832967571

第6章 韓国人宣教師にとっての日本宣教－「汝の敵」「隣り人」としての日本－

「韓国人宣教師にとっての日本宣教－「汝の敵」「隣り人」としての日本－」三木英編著『異郷のニューカマーたち』森話社、2016年、219-251頁。ISBN978-4-86405-105-7

第7章 なぜ日本人が韓国系キリスト教会の信者になるのか

「なぜ日本人が韓国系キリスト教会の信者になるのか」三木英編著『異郷のニューカマーたち』森話社、2016年、253-287頁。ISBN978-4-86405-105-7

第8章 韓国社会と統一教会

「韓国社会と統一教会」櫻井義秀・中西尋子『統一教会－日本宣教の戦略と韓日祝福－』北海道大学出版会、2010年、403-447頁。ISBN978-4-8329-6720-5

第9章 日韓両国における統一教会のあり方の差異－新聞報道の比較から見えること－

「日本と韓国における統一教会報道」櫻井義秀・中西尋子『統一教会－日本宣教の戦略と韓日祝福－』北海道大学出版会、2010年、169-193頁。ISBN978-4-8329-6720-5

第10章 在韓日本人信者の信仰生活

「在韓日本人信者の信仰生活」櫻井義秀・中西尋子『統一教会－日本宣教の戦略と韓日祝福－』北海道大学出版会、2010年、449-514頁。ISBN978-4-8329-6720-5

第 11 章 統一教会への入信－「女性性」の回復

「『女性性』の回復―ある新宗教教団における集団結婚式参加者たちの結婚と結婚生活―」社会学研究会『ソシオロジ』第 156 号、2006 年、103-118 頁。ISBN0584-1380

第 12 章 『本郷人』に見る祝福家庭の理想と現実

「『本郷人』に見る祝福家庭の理想と現実」櫻井義秀・中西尋子『統一教会―日本宣教の戦略と韓日祝福―』北海道大学出版会、2010 年、515-551 頁。ISBN978-4-8329-6720-5

結章―日韓関係を背景にした三者三様の宣教

書きおろし

目 次

序章

- 1 研究の背景
 - 1-1 日韓関係の負の側面と正の側面
 - 1-2 海を越えた日韓の宗教
 - 1-3 相手国に宣教すること、相手国の宗教を信仰すること
- 2 先行研究の検討
 - 2-1 在日大韓基督教会および韓国系キリスト教会群に関する研究
 - 2-2 統一教会に関する研究
- 3 研究の目的と方法
 - 3-1 在日大韓基督教会、韓国系キリスト教会群、統一教会の3つを俎上にのせる意義
 - 3-2 韓国キリスト教の「物語」
 - 3-3 調査の概要
 - 3-4 本論の構成
- 4 「土着化」の検討
 - 4-1 武田清子と桜井徳太郎の「土着化」
 - 4-2 森岡清美による「土着化」の検討
 - 4-3 在日大韓基督教会、韓国系キリスト教会群、統一教会の「土着化」
 - 4-4 すでに再生産過程にある韓国系キリスト教会群
- 5 韓国のキリスト教
 - 5-1 韓国の宗教状況
 - 5-1-1 宗教人口
 - 5-1-2 宗教別の教勢
 - 5-1-3 プロテスタント教会の教勢減退
 - 5-1-4 新宗教
 - 5-2 韓国キリスト教の歴史
 - 5-2-1 カトリックの受容と迫害
 - 5-2-2 プロテスタントの受容と教勢の拡大
 - 5-2-3 プロテスタントの教勢拡大の社会的背景
 - 5-3 在日大韓基督教会について
 - 5-4 韓国系キリスト教会群について
 - 5-5 統一教会について
 - 5-5-1 成立から展開
 - 5-5-2 教祖文鮮明について
 - 5-5-3 教義

- 5-5-4 統一教会における結婚
- 5-5-5 統一教会における自民族中心主義
- 5-5-6 日本に関する記述
- 5-6 韓国キリスト教史における在日大韓基督教会・韓国系キリスト教会群・統一教会
- 6 韓国キリスト教の海外宣教
- 6-1 派遣されている宣教師の数
- 6-2 宣教師の地域的分布
- 6-3 宗教圏別の宣教師分布
- 6-4 韓国キリスト教の日本宣教の始まり

第 I 部 在日大韓基督教会—民族の教会として—

第 1 章 民族の教会としての教会形成—在日大韓基督教会を事例として

- 1 はじめに
- 2 「在日」としての民族への自覚
- 3 『福音新聞』について
- 4 在日大韓基督教会にとっての日本社会
- 4-1 宣教対象は在日同胞
- 4-2 在日韓国・朝鮮人の人権問題に関する取り組み
- 4-3 差別の実態を取り上げた記事
- 5 指紋押捺拒否運動の展開
- 5-1 指紋押捺拒否運動のはじまり
- 5-2 運動の拡大
- 6 民族の歴史の再確認
- 7 おわりに

第 2 章 一世にとっての教会、二世にとっての教会—民族の教会としての機能—

- 1 はじめに
- 2 一世にとっての教会—民族の共同体として—
- 2-1 クリスマンになる—F さん（1910 生まれ）
- 2-2 教会の再建に尽くす—R さん（1906～1988 年）
- 2-3 クリスマン家庭の 3 代目として—Y さん（1921 年生まれ）
- 3 二世にとっての教会—エスニック・アイデンティティの獲得の場として—
- 3-1 T さん（男性、1938 年生まれ）
- 3-2 S さん（男性、1952 年生まれ）
- 4 おわりに

第3章 在日大韓基督教会と韓国系キリスト教の日本宣教のあり方を比較して

- 1 韓国キリスト教の土着化
- 2 在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会
- 3 韓国プロテスタント教会の流入の背景
 - 3-1 第1期－日韓併合による渡航者の増加と教会
 - 3-2 第2期－韓国における海外渡航自由化とニューカマーの流入
- 4 大阪西成教会と大阪オンヌリ教会
 - 4-1 大阪西成教会と大阪オンヌリ教会の信者数
 - 4-2 大阪西成教会
 - 4-3 大阪オンヌリ教会
- 5 民族主義の教会と普遍主義の教会
 - 5-1 在日大韓基督教会の民族主義的性格
 - 5-2 オンヌリ教会の普遍主義的性格
- 6 おわりに

第4章 韓国系キリスト教会の在日大韓基督教会への加入

- 1 はじめに
- 2 在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会群を連続したものとしてとらえる根拠
 - 2-1 本国教団との関係
 - 2-1-1 本国教団の在日宣教への協力
 - 2-1-2 宣教基本政策
 - 2-2 韓国系キリスト教会群の教会の在日大韓基督教会への加入
 - 2-2-1 加入の実態
 - 2-2-2 加入の理由
 - 2-3 宣教師が加入してから教会開拓
- 3 おわりに

第Ⅱ部 韓国系キリスト教会群－普遍主義のもとに－

第5章 日本における韓国系キリスト教会の概要

- 1 はじめに
- 2 韓国系の教団教派の諸教会
- 3 「単立／独立」の教会と日本の教団教派所属の教会
 - 3-1 教会類型による韓国系キリスト教会かどうかの判断
 - 3-2 韓国系キリスト教会でない可能性が高い教会
 - 3-3 韓国系キリスト教会の可能性が高い教会

3-4 韓国系キリスト教会の概数

4 韓国系キリスト教会の地域分布、設立年、信者数

4-1 地域分布

4-2 設立年

4-3 信者数

5 おわりに

付記 『クリスチャン情報ブック 2010』と『クリスチャン情報ブック 2017』の比較から

第6章 韓国人宣教師にとっての日本宣教－「汝の敵」「隣り人」としての日本－

1 はじめに

2 韓国キリスト教の日本宣教日本宣教の活発化

3 韓国人のエートス

3-1 韓国人の道徳的指向性

3-2 韓国社会における人間関係

3-3 国際関係

3-4 韓国人の上昇志向

4 事例

4-1 「ノム」である日本

4-2 「ニム」になろうとする上昇志向

4-2-1 A牧師

4-2-2 B牧師

4-2-3 C牧師

5 おわりに

第7章 なぜ日本人が韓国系キリスト教会の信者になるのか

1 はじめに

2 先行研究

3 システム化された新来者受け入れ態勢と教化過程

3-1 オンヌリ教会について

3-2 オンヌリ教会における学びのプログラム

4 学びのプログラム

4-1 七週の学び－新来者受け入れの態勢

4-2 筭（小グループ）－キリスト教信仰についての学習と人間関係の形成

4-3 Q T－学びの習慣化

4-4 弟子訓練－信仰強化の学びと緊密な人間関係の形成

5 事例－日本人信者にとってのオンヌリ教会

- 5-1 聴き取り調査の対象者
- 5-2 日本の教会からの転会
- 5-3 オンヌリ教会で受洗、あるいは韓国本国の教会や韓国系キリスト教会から転会
- 5-4 統一教会を脱会后、日本のキリスト教会を経ての転会
- 6 おわりに

第三部 統一教会—建前の普遍主義、本音の民族主義—

第8章 韓国社会と統一教会

- 1 韓国における統一教会研究
- 2 韓国における統一教会
 - 2-1 日本と異なるあり方
 - 2-2 宗教としての統一教会
 - 2-3 団体・事業活動の側面
 - 2-4 韓国における反統一教会運動
 - 2-5 教勢
 - 2-6 東南アジア出身の女性信者
- 3 韓国農村の結婚難と統一教会
 - 3-1 韓国における男性の結婚難
 - 3-2 急増する国際結婚と発生する諸問題
 - 3-3 韓国人の結婚観と統一教会
 - 3-4 「祝福」に対する意味づけ
 - 3-5 韓日祝福・日韓祝福の始まり
 - 3-6 農村部における布教の方法
 - 3-7 統計資料に見る在韓日本人女性の数
 - 3-7-1 韓国の国勢調査
 - 3-7-2 日本の外務省による海外在留邦人数調査統計
 - 3-8 宣教戦略としての韓日祝福

第9章 日韓両国における統一教会のあり方の差異—新聞報道の比較から見えること—

- 1 はじめに
- 2 記事の比較方法
 - 2-1 比較の視点
 - 2-2 『朝日新聞』と『朝鮮日報』
 - 2-3 記事検索の方法
- 3 『朝日新聞』・『朝鮮日報』に見られる統一教会報道

- 3-1 日本での宣教開始から大学生・青年への伝道期－Ⅰ期（1950-60年代）
- 3-2 政治領域への参入－Ⅱ期（1970年代）
- 3-3 経済活動（靈感商法）の活発化－Ⅲ期（1980年代）
- 3-4 教勢の停滞・カルト問題化－Ⅳ期（1990年代）
- 3-5 最近の統一教会－Ⅴ期（2000年以降）
- 4 日本と韓国¹の統一教会報道の差異
- 4-1 日本における統一教会報道
- 4-2 韓国における統一教会報道
- 4-3 報道の差異

第10章 在韓日本人信者の信仰生活

- 1 在韓日本人信者の入信・回心・合同結婚式への参加
- 1-1 現役信者達
- 1-2 調査対象者の基本的属性
- 1-3 入信の経緯
- 1-4 合同結婚式への参加から家庭出発まで
- 1-5 現役信者の入信・回心・合同結婚式までのパターン
- 2 祝福家庭の形成
- 2-1 書類提出から「祝福」、家庭出発まで
- 2-2 任地生活の役割
- 3 現役信者の信仰生活－A郡の信者を中心に
- 3-1 A郡を事例にする理由
- 3-2 A郡に暮らす日本人女性信者の属性
- 3-3 日本人信者の信仰生活
- 3-4 特別な行事
- 3-5 家庭での信仰実践
- 3-6 日本での信仰生活と韓国での信仰生活
- 4 日本人女性信者にとっての祝福家庭
- 4-1 理想と現実
- 4-2 地上天国実現のための家庭生活
- 4-3 罪の清算としての生活
- 4-4 祝福と結婚生活の本質
- 4-5 信仰のない夫や舅姑との関係
- 5 A郡・B市・ソウルの信者達
- 5-1 3地域で出会った信者達
- 5-2 3地域における信者の差異

5-3 日本と異なる信仰のあり方

第11章 統一教会への入信－「女性性」の回復

- 1 はじめに
- 2 統一教会の教え
- 3 事例－「女性であること」を肯定できない女性たち
 - 3-1 合同結婚式で結婚した日本人女性たち
 - 3-2 結婚について
 - 3-3 仕事について
 - 3-4 性規範について
- 4 考察－日本人女性たちの結婚と結婚生活
 - 4-1 女性であることを肯定する統一教会の教え
 - 4-2 日本人女性たちの結婚生活
- 5 おわりに

第12章 『本郷人』に見る「祝福家庭」の理想と現実

- 1 『本郷人』に見る祝福家庭の様子と教団の意図
- 2 『本郷人』について
- 3 『本郷人』に掲載されている「証し」
- 4 「証し」から見えてくる「祝福家庭」の様子
 - 4-1 「祝福家庭」の様子
 - 4-2 日韓祝福の男性信者
 - 4-3 本郷互助会の援助対象者
 - 4-4 調査事例との比較
- 5 統一教会的思考の枠組みの維持・強化に果たす『本郷人』の役割
 - 5-1 信仰強化のテキストとして
 - 5-2 復帰摂理の着実な歩み
 - 5-3 原理の再確認
 - 5-4 「証し」、カウンセリング記事
- 6 『本郷人』に見る韓日「祝福家庭」の姿と信仰強化のあり方

結章－日韓関係を背景にした三者三様の宣教

参考文献
あとがき
初出一覧

参考文献

(日本語)

- 浅見雅一・安廷苑 2012『韓国とキリスト教—いかにして“国家的宗教”になりえたか』中公新書。
- 飯田剛史 1990「在日韓国・朝鮮人社会における仏教および民俗宗教寺院の諸形態」『研究年報』15、富山大学日本海経済研究所、63-85頁。
- 飯田剛史 1999「在日大韓基督教会における民族と人権」中久郎編『社会学論集 持続と変容』ナカニシヤ出版、292-331頁。
- 飯田剛史・曹奎通 1999「朝鮮寺(韓寺)の変貌」宗教社会学の会編『神々宿りし都市—世俗都市の宗教社会学—』創元社、27-59頁。
- 飯田剛史 2013「在日コリアン社会における純福音教会と巫俗—普遍的基層宗教としてのシャーマニズム—」P. L. スワンソン編『キリスト教聖霊運動とシャーマニズム』南山大学、341-366頁。
- 飯沼二郎・韓哲曦編著 1986『伝道に生きて—在日大韓基督教会と織田櫛次—』麦秋社。
- 李仁夏 1978「植民地下朝鮮のキリスト教」小池健治・西川重則・村上重良編『宗教弾圧を語る』岩波新書、189-222頁。
- 李仁夏 1979『寄留の民の叫び』新教出版社。
- 李仁夏 1987『明日に生きる寄留の民』新教出版社。
- 李仁夏 1991『自分を愛するように』日本基督教団出版局。
- 李元範 2011「韓国における日本の新宗教」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化—韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教—』北海道大学出版会、55-84頁。
- 李清一・在日大韓基督教会歴史編纂委員会 2015『在日大韓基督教会宣教100年史 1908～2008』かんよう出版。
- 李鍾聲 2002「韓国キリスト教会の実態—過去・現在・未来—」『紀要』(東京神学大学) 5、151-172頁。
- 李進龜(李賢京訳)・櫻井義秀 2011「統一教会の日本宣教—日韓比較の視座—」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化—韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、175-207頁。
- 伊藤亜人・大村益夫・梶村秀樹・武田幸男監修 1986『朝鮮を知る事典』平凡社。
- 井上順孝 1985『海を渡った日本宗教—移民社会の内と外—』弘文堂。
- 井上順孝 1996『新宗教の解説』ちくま文芸文庫。
- 李賢京 2007「日本における韓国系プロテスタント教会の展開史」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』7、247-262頁。
- 李賢京 2008「日本における韓国プロテスタント教会の展開—「純福音教会」を中心として—」『現代社会学研究』(北海道社会学会) 21、59-77頁。

- 李賢京 2009 『韓流』と日本における韓国系キリスト教会－日本人メンバーの複層化に着目して－ 『宗教と社会』 15 : 43-65 頁。
- 李賢京 2011 「韓国系キリスト教会に日本宣教戦略と『韓流』」 李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化－韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、281-319 頁。
- 李賢京 2012 「韓国人ニューカマーのキリスト教会」 三木英・櫻井義秀編著『日本に生きる移民たちの宗教生活－ニューカマーのもたらす宗教多元化－』ミネルヴァ書房、193-224 頁。
- 林泰弘・李賢京 2011 「韓国新宗教の日本布教」 李元範・櫻井義秀『越境する日韓宗教文化－韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、143-157 頁。
- 植田千晶 2011 「韓国系キリスト教会に集う人々－その生活と信仰の世界－」 大阪市立大学社会学研究会『市大社会学』 12 : 65-86 頁。
- 上野千鶴子 1993 『『成熟と喪失』から三十年』江藤淳『成熟と喪失』講談社文芸文庫、256-283 頁。
- 宇治郷毅「戦時下の在日朝鮮人キリスト教運動」『福音と世界』新教出版社、1976 年、52-62 頁。
- 小倉紀蔵 1998 『韓国は一個の哲学である－〈理〉と〈気〉の社会システム－』講談社。
- 織田檜次 1977 『チゲクン－朝鮮・韓国人伝道の記録－』日本基督教団出版局。
- 川島堅二 2013 「韓国系キリスト教会の『弟子訓練』についての批判的考察」『恵泉女学園大学紀要』 25:21-35 頁。
- 韓国歴史編纂委員会 2002 『真の御父母様の生涯路程』 1、光言社。
- 韓国基督教歴史研究所（韓哲曦・蔵田雅彦訳）1995 『韓国キリスト教の受難と抵抗－韓国キリスト教史 1919-45』新教出版社。
- 金庚培（金忠一訳）1981 『韓国キリスト教会史』新教出版社。
- 金善恵 2010 「近代初期における韓国のプロテスタント社会事業に関する一考察」『評論・社会科学』 91、89-116 頁。
- 金鎮虎（香山洋人訳）2015 『市民 K、教会を出る－韓国プロテスタントの成功と失敗、その欲望の社会学－』新教出版社。
- 金昌宣 2008 『在日朝鮮人の人権と植民地主義－歴史・現状・課題』社会評論社。
- 金泰泳『アイデンティティ・ポリティクスを超えて－在日朝鮮人のエスニシティー』世界思想社、1999 年。
- 金東一 1988 「都市化と農村開発」韓国社会学会編（小林孝行訳）『現代韓国社会学－韓国社会、どこへ向かっているのか』新泉社、160-181 頁。
- 木村洋二・渡邊太 2001 「親・子・カルトのトライアッド－信者と家族と教団のソシオン・ネットワーク分析－」『関西大学社会学部紀要』 32-2、105-175 頁。
- キリスト新聞社 2009 『キリスト教年鑑 2010 年版』キリスト新聞社。

- クリスチャン新聞 2011「特集Ⅱ 教会教勢データ」『クリスチャン情報ブック 2012』いのちのことば社。
- クリスチャン新聞 2009『クリスチャン情報ブック 2010』いのちのことば社。
- 光言社制作部 1999『真の家庭－真の家庭を求めて－』光言社。
- 高鮮徽 1997「韓国人」駒井洋編『新来・定住外国人がわかる事典』、明石書店、62-63 頁。
- 在日大韓基督教会大阪西成教会 80 年史編纂委員会 2004『大阪西成教会 80 年史』在日大韓基督教会大阪西成教会、2004 年。
- 在日大韓基督教会指紋拒否実行委員会編 1986『日本人へのラブコールー指紋押捺拒否者の証言』明石書店。
- 在日大韓基督教会社会局 1989『第 1 回・第 2 回在日韓国人問題宣教会議報告集』。
- 在日大韓基督教会歴史編纂委員会 2002『在日大韓基督教会宣教 90 周年記念誌（1908～1998）』在日大韓基督教会。
- 在日大韓基督教会『福音新聞』福音新聞社。
- 在日大韓基督教会「宣教 90 周年記念大会」パンフレット、1998 年。
- 坂元一光 1984「韓国キリスト教の土着化における文化的『新解釈』試論」『比較教育文化研究施設紀要』35、73-89 頁。
- 櫻井義秀 2000「宗教集団調査法の新局面」研究代表者櫻井義秀『教団研究の今日的課題』（平成 10、11 年度科学研究費補助金報告書）2-8 頁。
- 櫻井義秀 2003a「宗教／ジェンダー・イデオロギーによる『家族』の構築－統一教会女性信者を事例に－」『宗教と社会』9、43-66 頁。
- 櫻井義秀 2003b「日本の『カルト』問題－韓国に嫁いだ日本統一教会女性信者の事例－」『日本近代学術研究』第 7 輯（韓国日本近代学会）103-118 頁（同論文韓国語訳 119-136 頁）。
- 櫻井義秀 2005『「カルト」問題における調査研究の諸問題－フレーミングとナラティブをめぐって－』『年報社会科学基礎論研究』第 4 号、57-75 頁。
- 櫻井義秀 2006『「カルト」を問い直す－信教の自由というリスク』中央公論新社。
- 櫻井義秀 2011「ある韓国系教会のカルト化－聖神中央教会を事例に－」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化－韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、399-441 頁。
- 櫻井義秀編著 2017『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』北海道大学出版会。
- 桜井徳太郎・小沢浩 1971「外来宗教の土着化をめぐる問題」『史潮』108、68-71 頁。
- 佐々充昭 2008「成長率低迷の中で岐路に立つ韓国キリスト教会－アフガニスタン韓国人拉致事件の背景」渡邊直樹編『宗教と現代がわかる本 2008』平凡社、80-83 頁。
- 佐藤勝巳 1977『在日朝鮮人－その差別と処遇の実態－』同成社。
- 澤正彦 1991「朝鮮」日本基督教団出版局編『アジア・キリスト教の歴史』日本基督教団出版局、87-126 頁。

- 塩谷政憲 1986 「宗教運動への献身をめぐる家族からの離反」 森岡清美編『近現代における「家」の変質と宗教』新地書房、153-174 頁。
- 宗教社会学の会編 1985 『生駒の神々ー現代都市の民俗宗教ー』創元社。
- 宗教社会学の会編 2012 『聖地再訪 生駒の神々ー変わりゆく大都市近郊の民俗宗教ー』創元社。
- 白波瀬達也 2007a 「釜ヶ崎におけるホームレス伝道の社会学的考察ーもうひとつの野宿者支援」『宗教と社会』13：25-49 頁。
- 白波瀬達也 2007b 「韓国系プロテスタント教会の野宿者支援ー東京中央教会を事例にー」『関西学院大学社会学部紀要』103：143-153 頁。
- 白波瀬達也 2011 「韓国キリスト教によるホームレス伝道」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化ー韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、377-397 頁。
- 白波瀬達也 2015 『宗教の社会貢献を問い直すーホームレス支援の現場からー』ナカニシヤ出版。
- 申光澈 2010 「韓国キリスト教の日本布教の現状と展望」研究代表者 櫻井義秀『日韓宗教文化の混在における葛藤と恵み』（研究課題番号 19652006）平成 19-20 年度科学研究費補助金（萌芽研究）研究成果報告書、144-147 頁。
- 申光澈・中西尋子 2011 「韓国キリスト教の日本宣教」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化ー韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、239-280 頁。
- 世界基督教統一神霊協会 1990a 『統一思想入門』光言社。
- 世界基督教統一神霊協会 1990b 『神を中心とする生活』光言社。
- 世界基督教統一神霊協会 1990c 『祝福の意義と価値』光言社。
- 世界基督教統一神霊協会 1990d 『地球家族への招待状』光言社。
- 世界基督教統一神霊協会 1993 『原理講論・普及版』。
- 世界基督教統一神霊協会伝道教育局 1996 『原理講論』（重要度三色分け・索引付き）光言社。
- 徐正敏 2012 『韓国キリスト教史概論ーその出会いと葛藤ー』かんよう出版。
- 徐正敏 2013 『日韓キリスト教関係史論選』かんよう出版。
- 竹沢尚一郎 1992 『宗教という技法ー物語論的アプローチ』勁草書房。
- 武田清子 1967 『土着と背教』新教出版社。
- 谷大二 2008 『移住者と共に生きる教会』女子パウロ会。
- 谷富夫 1994 『聖なるものの持続と変容』恒星社厚生閣。
- 谷富夫 1995a 「在日韓国・朝鮮人社会の現在ー地域社会に焦点をあてて」駒井洋編『定住化する外国人』明石書店、135-161 頁。
- 谷富夫 1995b 「エスニック社会における宗教の構造と機能ー大阪都市圏の在日韓国・朝鮮人社会を事例としてー」『人文研究』（大阪市立大学文学部紀要）47、1-18 頁。

- 池明観 1982『現代史を生きる教会』新教出版社。
- 曹紗玉 2011「韓国の大学とキリスト教」『キリスト教文化学会年報』57、5-20 頁。
- 朝鮮史研究会編 1974『朝鮮の歴史』三省堂。
- 崔吉城 2002『「親日」と「反日」の文化人類学』明石書店。
- 崔世雄（尹惠園訳）2013『残りの民—日本の教会に希望はあるか—』いのちのことば社。
- 崔亨黙（金忠一訳）2013『権力を志向する韓国のキリスト教—内部からの対案』新教出版社。
- 塚田穂高・寺田善朗・川島堅二・浅見定雄・山口広・櫻井義秀・中西尋子 2012「宗教社会学・教団研究の現在と社会との接点—櫻井義秀・中西尋子『統一教会』を検討する—」『宗教と社会』18、125-136 頁。
- 對馬路人 1994「東アジアの経済発展と儒教」合田濤編『アジア・太平洋の人と暮らし』IV、南窓社、10-25 頁。
- 常石希望 2005「韓国における初期キリスト教受容の要因」(上) 愛知大学語学教育研究室『言語と文化』13、61-88 頁。
- 中西尋子 2004『「地上天国」建設のための結婚—ある新宗教教団における集団結婚式参加者への聞き取り調査から—』『宗教と社会』10、47-69 頁。
- 中西尋子 2005「在韓日本人妻の人数—『海外在留邦人数調査統計』から—」『消費者法ニュース』64号、消費者法ニュース発行会議、181-184 頁。
- 中西尋子 2007「民族と教会—在日大韓基督教会の事例」宗教社会学の会編『宗教を理解すること』創元社、50-79 頁。
- 中西尋子 2011「在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会の日本宣教」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化—韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、321-349 頁。
- 中西尋子 2013「民族の教会としての教会形成—在日大韓基督教会を事例として」こりあんコミュニティ研究会『コリアンコミュニティ研究』4：42-61 頁。
- 野入直美 2002「キリスト教信仰と家族生活」谷富夫編著『民族関係における結合と分離』ミネルヴァ書房、379-455 頁。
- 盧吉明 1988「70年代韓国の宗教の成長とこれからの展望」韓国社会学会編（小林孝行訳）『現代韓国社会学—韓国社会、どこへ向かっているのか』新泉社、89-114 頁。
- 芳賀学・菊池裕生 2006『仏のまなざし、読みかえられる自己—回心のミクロ社会学—』ハーベスト社。
- 荻翔一 2014「日本における韓国系キリスト教会の展開過程—荒川区荒川・日暮里地区を事例に」（東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻 平成 26 年度修士論文）。
- 荻翔一 2016a「韓国系キリスト教会におけるエスニシティの多様化と組織の変容—新旧のコリアンの関係性を中心に—」『宗教と社会』22、17-31 頁。
- 荻翔一 2016b「エスニック・チャーチとしての存続と葛藤—戦後期における在日大韓基督

- 教会を事例にー」『大学院紀要（社会学・福祉社会）』53、東洋大学大学院、1-21頁。
- 荻翔一 2016c「韓国系キリスト教会における国際結婚夫婦の信仰ー宗教的プログラムの影響に注目してー」『次世代 人文社会研究』12、199-216頁。
- 河用祚 2007『使徒の働きの教会をめざして』ツラノ書院。
- 河用祚 2012『神が愛される日本を私も愛した』Duranno。
- 秀村研二 1999「受容するキリスト教から宣教するキリスト教へー韓国キリスト教の展開をめぐる」『朝鮮文化研究』（東京大学文学部朝鮮文化研究室編）6、95-107頁。
- 秀村研二 2002「20世紀韓国キリスト教の展開」杉本良男編『宗教と文明化』ドメス出版、94-110頁。
- 秀村研二 2012「特集＝キリスト教と韓国朝鮮社会〈問題提起〉」韓国・朝鮮文化研究会『韓国朝鮮の文化と社会』11、風響社、7-15頁。
- 藤野陽平 2013『台湾における民衆キリスト教の人類学ー社会的文脈と癒しの実践ー』風響社。
- ブルデュ, ピエール., (今村仁司・港道隆訳) 2001『実践感覚』1、みすず書房。
- 文化庁 2008『宗教年鑑』平成19年度版。
- 文化庁 2011『宗教年鑑』、平成23年版
- 文化庁 2015『宗教年鑑』（平成26年版）。
- 朴慶植 1965『朝鮮人強制連行の記録』未来社。
- 本田洋 1996「日韓人流の推移とコリアンニューカマーズの性格」韓国文化研究振興財団『青丘学術論集』8、246-283頁。
- 牧田吉和 2010「神戸（中央）神学校と朝鮮留学生ー韓日キリスト教史の埋もれた事実ー」（2010年7月9日、在日大韓基督教会館歴史講座講演（講演レジュメ）。
- 三木英・櫻井義秀編著 2012『日本に生きる移民たちの宗教生活ーニューカマーのもたらす宗教多元化ー』ミネルヴァ書房。
- 三木英編著 2017『異教のニューカマーたちー日本における移民と宗教ー』森話社。
- 水野直樹 1998「京都における韓国・朝鮮人の形成史」京都民族文化教育研究所『民族文化教育研究』一、70-81頁。
- 宮下良子 2015『『朝鮮寺』から『在日コリアン寺院』へーコロニアル／ポストコロニアル状況における在日コリアンの宗教的实践ー』『人文学報』108、京都大学人文科学研究所、49-62頁。
- 宮下良子 2012「在日コリアン寺院」『聖地再訪 生駒の神々ー変わりゆく大都市近郊の民俗宗教ー』創元社、173-184頁。
- 関庚培 1981『韓国キリスト教会史』新教出版社。
- 森岡清美 1976「入信の説明理論ー初期日本人キリスト信徒の場合」『宗教研究』50(3)、227-247頁。

- 森岡清美 1972 『『外来宗教の土着化』をめぐる概念的整理』『史潮』109、52-57 頁、41 頁。
- 安田直人 1995 「旧日本基督教会による朝鮮基督教会併合の問題」『改革派神学』24、3-72 頁、神戸改革派神学校。
- 梁賢恵 1997 「在日大韓基督教の歴史と神学」脇本平也・田丸徳善編『アジアの宗教と精神文化』新曜社、160-185 頁。
- 梁銀容 2011 「韓国円仏教の日本布教の現状と展望」李元範・櫻井義秀『越境する日韓宗教文化－韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、159-174 頁。
- 柳東植 1987 『韓国のキリスト教』東京大学出版会。
- 吉野航一 2011 「沖縄における韓国系キリスト教会の展開－在日大韓基督教会沖縄教会と純福音沖縄教会を事例に－」李元範・櫻井義秀編著『越境する日韓宗教文化－韓国の日系新宗教 日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会、351-376 頁。
- 歴史編纂委員会 2000 『日本統一運動史－文鮮明先生御夫妻と日本の統一教会および統一運動の歩み－』光言社。
- 渡邊太 2000 「カルト信者の救出－統一教会脱会者の『安住しえない境地』－」『年報人間科学』(大阪大学人間科学部) 21:225-241 頁。

(欧文)

- Barker, Eileen, 1984, *The Making of a Moonie, Choice or Brainwashing?*, Gregg Revivals.
- Illich, I., 1982, *Gender*, Heyday Books. (=1984、玉野井芳郎訳『ジェンダー』岩波書店)
- Lofland, Jhon and Stark, Rodney, 1965, "Becoming a World-Sarver: a Theory of Conversion to a Deviant Perspective," *American Sociological Review* 30:862-875.
- Miyamoto, Yotaro, 1999, "The Family of Religion, The Religion of Family: A Case Study of the Unification Church", 『宗教と社会』5:61-86.
- Mullins, Mark R., 1998, *Christianity Made in Japan: A Study of Indigenous Movements*, Honolulu: University of Hawai'i Press (=2005、高崎恵訳『メイド・イン・ジャパンのキリスト教』トランスビュー。
- Palmar, Susan Jean, 1994, *Moon Sisters, Krishna Mothers, Rajneesh Lovers: Women's Roles in New Religions*, Syracuse University Press.

(韓国語)

- イ・ジョンフン 2006 「日本を揺さぶる韓国の統一教、韓国で広がる日本の創価学会」『新東亜』2006年3月1日(通巻558号)、226-251 頁。
- (이정훈 2006 「[한·일 현장취재] 일본 혼든 한국 통일교, 한국 뚫은 일본 창가학회」『신동아』2006.3.1(통권 558호), 226-251.)

- キム・ヨンム/キム・グチョル 2004『チャートで見る 異端と似而非』アガペー文化社。
 (김영무/김구철 2004『차트로 본 이단과 사이비』아가페문화사.)
- 韓国基督教歴史学会編 2009『韓国キリスト教の歴史 3－解放から 20 世紀末まで－』韓国基督教歴史研究所。
 (한국기독교역사학회편 2009『한국기독교의 역사 3－해방이후 20 세기 말까지－』한국기독교역사연구소.)
- 韓国宣敎研究院 2013「韓国宣敎現況および財政に対する質問調査結果発表」
 (한국선교연구원「2013 년 한국선교현황 및 재정에 대한 설문조사 결과 발표」、<http://www.krim.org/>より 2015 年 3 月 5 日ダウンロードした資料)
- 社会統計局 社会統計局企画課 2013『2012 韓国の社会指標』
 (사회통계국 사회통계기획과 2013『2012 한국의 사회지표』)
- 社団法人韓国世界宣敎協議会 2014「2014 年 12 月末 韓国宣敎師派遣現況 (統計)－170 개국 26,677 名－」
 (사단법인 한국세계선교협의회 2014「2014 년 12 월말 한국선교사 파송 현황 (통계)－170 개국 26,677 명－」)
- 統計庁『人口住宅総調査報告書 2005』
 (통계청『2005 인구주택총조사보고서』)
- 文化体育觀光部 2012『韓国の宗教現況』
 (문화체육관광부 2012『한국의 종교 현황』)

参考サイト

(日本語)

日本聖公会大阪教区 聖ガブリエル教会 <http://nssk.org/osaka/church/stgabriel/>

大阪オンヌリ教会ホームページ <http://osakaonnuri.org/>

在日大韓基督教会 <http://kccj.jp/>

論文要旨

韓国から日本に流入し、一定の教勢を保持している宗教にキリスト教とキリスト教系新宗教がある。キリスト教は「在日大韓基督教会」という超教派の教団および「韓国系キリスト教会」と総称される諸教会であり、キリスト教系新宗教は「統一教会」（世界平和統一家庭連合、旧世界基督教統一神霊協会）である。

日本と韓国は植民地支配と被支配の負の歴史的関係から、未だ両国間にわだかまりが残る。かつて日本では韓国や在日韓国・朝鮮人に対する偏見や差別があり、それはまだ消えたとはいえ、近年では在特会（在日特権を許さない市民の会）のような団体も出現している。このような状況にありながら上記3つの宗教は日本で宣教を展開し、日本人信者を獲得している。韓国系キリスト教会は一定程度、統一教会はおそらくそれ以上に、在日大韓基督教会は多くはないが、日本人信者がいる。

日本はキリスト教信者が1%未満であり、韓国のキリスト者のあいだでは「宣教師の墓場」といわれる。日韓関係の難しさや宣教の困難さを抱えながら3つの宗教がどのように日本宣教を行い、日本人信者を獲得しているのか。これが本論での問題である。

これまで宗教社会学では、在日大韓基督教会はエスニック・コミュニティの宗教、韓国系キリスト教会は外来宗教、統一教会は社会問題化する宗教として個別に研究されてきた。在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会の比較研究は見られたが、統一教会を加えて3つを並べて俎上に載せた研究はなされてこなかった。在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会は正統なキリスト教伝統にあるが、統一教会は問題がある宗教団体としてまったくの別物のようにみなされ、同じの俎上に載せるという視点が生まれにくかったためと思われる。

しかし3つの宗教は朝鮮半島から日本に時期を異にして流入したキリスト教とキリスト教系新宗教であり、並べて見ることによって3者の日本宣教のあり方が日韓関係を背景に性格づけられ、その性格の差異が日本人信者の獲得にも影響を及ぼしていることがわかる。序章ではまず以上のような問題設定を述べたうえで研究の目的と方法、調査対象の概要などを提示する。序章以降は3部に分け、第I部で在日大韓基督教会、第II部で韓国系キリスト教会群、第III部で統一教会について論じた。

第I部「在日大韓基督教会－民族の教会として－」では、在日大韓基督教会が日本において民族の教会として日本に定着してきたことを明らかにする。第1章「民族の教会としての教会形成－在日大韓基督教会を事例として－」では、教団の機関紙『福音新聞』（1951年創刊）の記事を通して在日大韓基督教会が教団として日本社会にどのように向き合い、民族主義的な性格を持つようになったかを考察した。

第2章「一世にとっての教会、二世にとっての教会－民族の教会としての機能－」では、在日大韓基督教会の信者である在日韓国人一世の女性3名、二世の男性信者2名の生活史から彼らにとって教会がどのような役割を果たしたかを明らかにする。日本での厳しい暮らしの中で一世の女性たちにとっては同胞が集い、韓国語で礼拝が行われる教会は何より

もの拠り所となる民族の共同体であり、二世にとってはエスニック・アイデンティティを獲得していく場になったといえる。

第3章「在日大韓基督教会と韓国系キリスト教の日本宣教のあり方を比較して」では、在日大韓基督教会の大阪西成教会（1923年設立）と韓国系キリスト教会の大阪オンヌリ教会（2000年設立）を比較し、日本人信者獲得の差異について考察した。前者は民族の教会として始まった経緯から礼拝の言語は韓国語が優先された。それに対し後者はおよそ信者の6分の5は韓国人だが、日本人への宣教のため日本語が優先された。礼拝の言語や教会における民族主義的な色合いの有無が日本人信者獲得に差をもたらしたことを明らかにした。

第4章「韓国系キリスト教会の在日大韓基督教会への加入」では、在日大韓基督教会は在日同胞の教会（教団）として日本に定着してきたが、現在では牧師や伝道師の3分の2が韓国の教団から派遣された宣教師である。また1980年代以降、韓国系キリスト教会の中には在日大韓基督教会に加入する教会が見られるようになった。従来の研究では在日大韓基督教会と韓国系キリスト教会群は別物のように扱われてきたが、実態としては明確な線引きができないようになっていることを明らかにした。

第Ⅱ部「韓国系キリスト教会群—普遍主義のもとに—」では、韓国系キリスト教会（群）が日韓関係の負の歴史とは一線を画し、積極的に日本人を対象に宣教を行っていることを明らかにする。まず第5章「日本における韓国系キリスト教会の概要」では、『クリスチャン情報ブック』（2010年版）に掲載の全教会情報をあたり、日本における韓国系キリスト教会の実態を把握しようと試みた。これまで全体像が不明だったが、韓国系キリスト教会と推察される教会は大都市圏だけでなく38都道府県に分布しており、推計300近くあることがわかった。多くが1980年代後半から2000年代前半にかけての設立であり、全体の81%にのぼることが明らかになった。

第6章「韓国人宣教師にとっての日本宣教—『汝の敵』『隣り人』としての日本—」では、韓国キリスト教が活発な日本宣教を行う要因について考察した。韓国はキリスト教人口がおよそ25%を占め、キリスト教が盛んなだけに牧師が供給過剰である。それが海外宣教を活発化させると従来いわれてきたが、それだけではなぜ「日本」宣教を活発に行うのかを説明できない。韓国では儒教倫理が深く根付き、その道德志向性は韓国人のエートスになっていると考えられる。物事に対しては「正しさ」の、個人にあっては人格陶冶の追求となり、それが日本宣教へと駆り立てているのではないかと指摘した。

第7章「なぜ日本人が韓国系キリスト教会の信者になるのか」では、日本人が韓国系キリスト教会の信者になる要因について、大阪オンヌリ教会における新来者受け入れ態勢と教化過程に焦点をあてて考察した。大阪オンヌリ教会には「7週の学び」、「筈」（韓国語で「木の枝になる伸びた芽」のこと、ここでは小グループをいう）、「QT」（Quiet Time）、「弟子訓練」という学びのプログラムがある。新来者はこのプログラムに「乗る」ことにより、信仰を強化するとともに教会に定着していくと考えられ、学びのプログラムにはブルデュ

一が指摘する信仰獲得のしくみが備わっていることを指摘した。

第Ⅲ部「統一教会—建前の普遍主義、本音の民族主義—」では、韓国生まれのキリスト教系新宗教である統一教会について、なぜ日本で教勢を拡大することができたのかを考察する。日本における統一教会についてだが、調査対象者の大部分が合同結婚式で韓国人男性と結婚して韓国に暮らす日本人女性信者である。そのため、まず第8章、9章では韓国における統一教会のあり方について把握した。

第8章「韓国社会と統一教会」では、韓国における統一教会は宗教団体を含む事業体であり、活動のあり方が日本とは大きく異なることを指摘する。次に7千人もの日本人女性が合同結婚式で韓国人男性と結婚して韓国に暮らすとされる点について、韓国と日本の統計データから「7千人」という人数を裏付ける。そして韓国人男性と日本人女性がカップリングされる背景には韓国の農村における男性の結婚難や、日本以上に非正規雇用の割合が高いことなどがある点を指摘した。

第9章「日本と韓国における統一教会報道」では、1950～1960年代から現在までの『朝日新聞』、『朝鮮日報』における統一教会関連記事を比較し、両国における統一教会のあり方の差異を明らかにする。日本では靈感商法が1980年代後半から社会問題化し、『朝日新聞』には提訴、判決などの記事が見られる。一方『朝鮮日報』にはそのような記事は一切なく、統一教会や教祖の動向、傘下の関連企業などに関する記事が見られる。両国における統一教会の宣教戦略が異なることが記事を通して明らかにした。

第10章「在韓日本人信者の信仰生活」では、調査地の概要、調査対象になった在韓日本人信者の属性、入信から結婚までの経緯などを記述するとともに、韓国での暮らしに対する彼女たちの意味づけを明らかにする。日本人女性信者たちは統一教会で「結婚」したが、それは「結婚」に見えて「結婚」ではないといえる。彼女たちの韓国での暮らしは「地上天国」建設という社会変革運動であり、また日本による朝鮮半島植民地支配の罪を清算するものであることがわかる。

第11章「統一教会への入信—『女性性』の回復」では、日本人女性たちがなぜ統一教会に入信し、教団が決めた韓国人男性と愛情もないまま結婚できるのかを考察した。およそ彼女たちは結婚に夢や希望を見出せず、仕事では「女は損」という感情をもっていた。そしてときに女性は意に反して性的対象として扱われる。女性であることに積極的意味を見出せない状況において彼女たちは統一教会に出会った。統一教会において結婚して子どもを産み育てることは崇高な宗教実践であり、それが彼女たちにとって女性であることを肯定し、女性としての自己を回復させる道になったといえる。

第12章『『本郷人』に見る祝福家庭の理想と現実』では、統一教会が韓国で発行する在韓日本人信者向けの機関紙『本郷人』を用いて筆者の調査対象者を相対化するとともに、機関紙を通して教団が在韓日本人信者に何を伝えようとしているかについて、その意図を読み解く。筆者が実際に会って調査した対象者は比較的平穏無事に暮らす信者だった。しかし『本郷人』の記事からは夫や子どもの問題、生活苦、病気など、さまざまな問題を抱

える信者が少なくないことが確認できた。また『本郷人』には教団の行事について、またそこで語られた教祖や教団幹部の言葉がつねに掲載される。それは日々生活することに精一杯となりがちな信者に対し、初心を忘れることなく、統一教会信者としての使命を遂行せよという信仰強化のテキストといえる。『本郷人』は統一教會的思考の枠組みを維持・強化する役割を果たすことが確認できた。

結章「日韓関係を背景にした三者三様の宣教」では、第1章から12章を通した知見をまとめ、在日大韓基督教会、韓国系キリスト教会、統一教会の日本宣教が、日韓関係の歴史を下敷きにした物語として展開され、特徴づけられていることを考察した。

まず3者の日本宣教は歴史的に見ると、朝鮮半島から日本への宣教第1波、第2波、第3波としてとらえられ、いずれも日本による朝鮮半島の植民地支配が影響していることがわかる。第1波は1910年の韓国併合後、日本に仕事を求めて渡った同胞を対象に韓国キリスト教が宣教を開始したものであり、その結果、在日大韓基督教会という教団が設立された。第2波は統一教会の日本宣教である。統一教会は朝鮮戦争休戦の翌年1954年に設立され、日本宣教は日韓国交正常化前の1958年から開始された。そのときの宣教師は2歳から大学生の頃までを大阪で暮らし、終戦直前に帰国した崔奉春であり、日本語が堪能だったために宣教を任された。教祖文鮮明も1941年から43年まで早稲田高等工学校に留学したとされる。第3波の韓国系キリスト教会の日本宣教は、1989年の韓国における海外渡航完全自由化以降に本格化した。仕事や留学で来日し、日本に暮らす韓国人ニューカマーが増加することで彼らへの宣教とともに日本人への宣教が活発化した。第1波の宣教は仕事を求めてやむなく日本に渡った同胞を対象にしたが、第3波は積極的意志で来日した同胞を対象にしたものであり、韓国キリスト教の歴史においては第1波の延長線上に第3波の日本宣教が位置づけられる。

次に3者の日本宣教は日韓関係の歴史によって性格づけられたことを指摘した。在日大韓基督教会は植民地下において日本に渡った同胞を対象に始まった宣教から形成され、戦後は同胞の人権問題に積極的に関与し、おのずと民族主義的な性格を強めた。それに対して韓国系キリスト教会は日韓関係を超えて普遍主義に立ち、日本宣教を展開する。韓国キリスト教にとって日本は「汝の敵」あるいは「隣人」であり、それに対して韓国は「よきサマリヤ人」である。キリスト教的観点から日本宣教を続ける。統一教会は国境、民族、宗教が垣根を越えて1つになった平和な世界「地上天国」の実現を理想として活動する。しかし実際は自民族中心主義に立つ。統一教会では日本は人類墮落の原因をつくった「エバ国家」であり、また朝鮮半島を植民地支配した「サタン側」の国とされる。韓国は「アダム国」であり、日本は韓国にできる限りの人的・財的な協力をすべきとして、統一教会は正体を隠した勧誘や靈感商法といった活動を続ける。

以上のように、韓国から日本に流入したキリスト教やキリスト教系新宗教の日本宣教は、日韓関係の歴史の上に展開され、性格づけられてきたものであるといえる。